三朝における古地磁気学実験

Paleomagnetic experiments in Misasa (ISEI laboratory)

河野 長[1]

Masaru Kono[1]

[1] 岡山大固地研

[1] ISEI, Okayama University

www.misasa.okayama-u.ac.jp

岡山大学固体地球研究センター(三朝)の古地磁気実験室は1999年に開設され、以来5年間にわたって科研費補助金などによって設備の充実がはかられてきた。しかし、この研究室は2005年3月を持って閉鎖される予定である。このため、三朝の保有する実験設備等は、これから1年以内に日本の古地磁気コミュニティの適当な機関等に譲渡する必要がある。この発表においては、三朝の古地磁気実験室(特に実験設備)と、実験及び解析のために開発されたソフトウェアの概要について述べる。

三朝で保有している主な古地磁気関係の測定器には以下のものがある。

- (1) 振動磁力計 (Princeton Measurements Micromag 3900)
- (2) 交流消磁スピナー磁力計(夏原技研)2台
- (3) 熱消磁スピナー磁力計(夏原技研)
- (4) 熱消磁炉(夏原技研)2台
- (5) 帯磁率計 (Bartington)
- (6) 三軸フラックスゲート磁力計 (Applied Physics)

これらの測定器は、主として熱残留磁化起源の磁化測定を対象として導入された。従って、特に残留磁化に関しては、堆積物の測定ができる感度を持つものはない。しかし火山岩ならば、たいていの実験を実行しうる組み合わせになっている。

設備の移管に当たっては、なるべくならば一括して引き受けてくれる機関に譲渡したい。しかし様々な事情があろうから、コミュニティの発展に役立つ方向でということを主眼にして決定したい。このため、固体地球研究センターの共同利用制度を用いて、希望者に三朝においていただいて相談の上で決定することを考えている。具体的には、9月30日(木)ー10月1日(金)の両日三朝においてワークショップを開催し、その際にみなさんにお集まりいただく方向で計画している。(過去3回のワークショップの内容などについては、http://www.misasa.okayama-u.ac.jp/~mkono/workshop/を参照のこと)。